

# 化学

## Chemistry

教授	高橋 康丈	Yasutake Takahashi
教授(前)	広上 俊一	Shun-ichi Hirokami
助教授	杉森 保	Tamotsu Sugimori
教務職員	角田 広子	Hiroko Kakuda

### ◆ 研究概要

高橋康丈：有機および生物有機光化学反応の中間体に関する研究。

杉森 保：新規機能性フタロシアニン錯体の合成と特性化。

角田広子：超原子価ヨウ素化合物による分子内アミノ環化反応の開発とその応用。

### ◆ 原 著

- 1) Takahashi Y., Sakakibara T., Inaba M., Tomioka H., Koseki S., Fujimoto K., and Umeda H.: Effect of Phenyl Substitution on the Lifetime and Product Distribution of Cyclobutylidene: Preference Change in the Rearrangements *via* 1,2-Carbon Shift and 1,2-Hydrogen Shift. *Tetrahedron Lett.*, 47: 3995–3999, 2006.
- 2) Kasuga, K., Ohmori, K., Tanaka, H., Handa, M., and Sugimori, T.: Intercalation of Cationic 2,9,16,23-Tetra(3-N,N,N-trimethylaminoethoxy)phthalocyaninatozinc(II) into Titanium Hydrogen (Sodium and Octyl) Phosphate, *Inorg. Chem. Commun.*, 9: 1019–1022, 2006.
- 3) Niwa T., Funasaka Y., Kikuchi K., Takahashi Y., and Ikeda H.: Electron transfer fluorescence quenching of aromatic Hydrocarbons by Europium and Ytterbium Ions in Acetonitrile. *J. Phys. Chem. A*, 110: 2595–2600, 2006.

### ◆ 学会報告

- 1) 赤崎将, 高橋康丈：フタルイミドナイトレンの光発生と反応性。日本化学会第 86 回春季年会, 2006, 3, 船橋市 (#1K419)。
- 2) 宮崎友貴, 高橋康丈：光フラグメンテーションによるジハロカルベン の発生。日本化学会第 86 回春季年会, 2006, 3, 船橋市 (#1K427)。
- 3) 近藤浩太, 高橋康丈：ベンゾシクロブテニリデン誘導体の発生と反応性。日本化学会第 86 回春季年会, 2006, 3, 船橋市 (#1K431)。
- 4) 角田広子, 広上俊一, 桐原正之：超原子価ヨウ素化合物による分子内アミノ環化反応：側鎖水酸基の効果。日本薬学会第 126 年会, 2006, 3, 仙台 (#P30[Q]pm-039)。
- 5) 杉森保, 森川寛敏, 半田真, 池上崇久, 春日邦宣：酸化還元活性な置換基を導入したフタロシアニン金属錯体。第 56 回錯体化学討論会, 2006, 9, 広島 (#2PA007)。
- 6) 赤崎将, 高橋康丈, 北川敏一：フタルイミドナイトレンの光発生と反応性。第 18 回基礎有機化学討論会, 2006, 10, 福岡市 (#1PB55)。
- 7) 宮崎友貴, 高橋康丈, 北川敏一：光フラグメンテーションによるジハロカルベン の発生。第 18 回基礎有機化学討論会, 2006, 10, 福岡市 (#2PC77)。
- 8) 宮崎友貴, 高橋康丈, 北川敏一：光フラグメンテーションによるジハロカルベン の発生。第 37 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会, 2006, 11, 豊田市 (#2P42)。
- 9) 赤崎将, 高橋康丈, 北川敏一：フタルイミドナイトレンの光発生と反応性。第 37 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会, 2006, 11, 豊田市 (#2P43)。